

関西菌類談話会会報

2012年8月 No. 29



目 次

表紙 [ヌメリツバタケ]	丸山健一郎	1
アカカゴタケ・アンドンタケ文献史	奥沢 康正・本多 澄夫	2
2010年度活動の記録		10
表紙によせて，編集後記など	編集委員会	16

アカカゴタケ・アンドンタケ文献史

奥沢 康正・本多 澄夫

アカカゴタケ・アンドンタケは一体いつ頃西洋・日本で初めて報告されたのでしょうか？我々は素朴な疑問から今一度アカカゴタケ・アンドンタケの文献を出来る限り集めてみることにしました。また共同報告者の本多が採集したアンドンタケの写真を御覧いただきたい為でもあります。記述順序は1) 今日迄記載を見ない文献・史実の報告, 2) 1700年代のアカカゴタケの西洋文献と学名の変遷, 3) アカカゴタケ属の和名と命名者, 4) アカカゴタケ属の日本での採集者, 採集地, など, 5) 日本のアカカゴタケ・アンドンタケの文献史, 6) 西洋でアカカゴタケと考えられるキノコを初めて図とともに詳しく記載した原著の翻訳, 7) 本多が採集したアンドンタケの写真について順次述べてみたいと思います。

1) 今日迄未発表の史実

- ①アカカゴタケを図を添えて詳しく報告したのは M. de Réaumur で, 1713年であった。(図1)
- ②de Réaumur はアカカゴタケを *Boletus* という分類群に入れた。当時 *Boletus* は mushroom の意味に用いられており, 現在の *Boletus* 属 (イグチ) の意とは全く異なる。
- ③Carolus Linnaeus により1735年に出版された『自然体系 (Systema Naturae)』ではきのこは僅か9種に分類されていたが, 1753年に出版された『Species Plantarum』ではきのこは10属75種に分類されていた。
- ④1700年代のアカカゴタケの文献は表1に挙げた

5つと推察される。

- ⑤1700年代のアカカゴタケの彩色図譜を掲載した者は de Réaumur, Micheli, Bulliard の三人であった。(図2, 3)
- ⑥アンドンタケは西洋の文献に見られない。

2) 1700年代のアカカゴタケの西洋文献と学名の変遷

表1より我々がアカカゴタケを図を添えて詳しく報告したと考える de Réaumur は, Ainsworth 著『菌類史 (Introduction to the History of Mycology)』によれば中国産冬虫夏草を1726年世界で初めて報



図1 de Réaumur, M. の論文に載るアカカゴタケの図 (表1参照)

表1 1700年代のアカカゴタケの西洋文献と学名

報告年	著者名	表題	学名
1700年	de Tournefort, J. P.	Institutiones rei herbariae, editio altera (Latin translation of <i>Elemens de botaniqu</i> , 1694)	<i>Boletus cancellatus purpureus</i>
1713年	de Réaumur, M.	<i>BOLETUS RAMOSUS, CORALLOIDES FOETIDUS</i> . Morille branchue de figure et de couleur de Corail, et tres puante. No. 1	<i>BOLETUS RAMOSUS, CORALLOIDES FOETIDUS</i>
1729年	Micheli, P. A.	<i>Nova Plantarum Genera</i>	<i>Clathrus cancellatus</i>
1753年	Linnaeus, C.	<i>Species Plantarum</i>	<i>Clathrus cancellatus</i>
1789年	Bulliard, P.	<i>Herbier de la France; ou, Collection complete des plantes indigenes de ce royaume; avec leurs proprits, et leurs usages en medecine</i> (1780)	<i>Clathrus volvaceus</i>

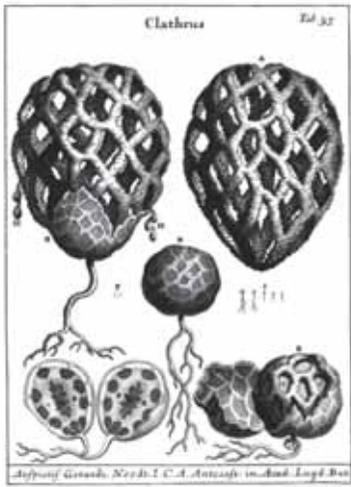


図2 Micheli, P.A. Nova Plantarum Genera に載るアカカゴタケの図 (表1参照)

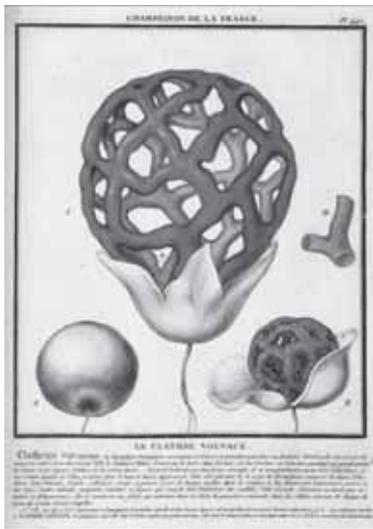


図3 Bulliard, P. Herbier de la France に載るアカカゴタケの図 (表1参照)

告した人物である。1683年に生まれ1757年74歳で没した。アカカゴタケの初めての報告者とする Tournefort は、1700年に476点の銅版図譜を載せた全3巻の『Institutiones rei herbariae』をパリから発刊、この中に6ページにわたり菌類を説明している。1656年に生まれ1708年52歳で没した。

Tournefort の大著を見て、これに大きな影響を受けた Micheli はフローレンスに在住し、国立公園の管理者となり、胞子からキノコが発生する説を発表し、1729年『新植物誌 (Nova Plantarum Genera)』を著した。Micheli はアカカゴタケの学名に初めて *Clathrus cancellatus* を命名し、これを *Arcyria (clathroides)* の分類に含め記述している。

1679年に生まれ、1737年58歳で没した。

1753年ウプサラ大学教授となり1735年『自然体系』を発売し、1751年『植物哲学 (Philosophia Botanica)』において植物分類法の二名法を唱えたスウェーデンの生物学者 Carolus Linnaeus はアカカゴタケを *Clathrus cancellatus* としている。1707年に生まれ1778年71歳で没した。

Bulliard は植物学者であったが絵もよくし1789年383図の色彩刷銅板図譜を載せ、全13巻『フランス本草誌 (Herbier de la France)』を著した。構図は大胆で興味をそそる図譜となっている。この中にアカカゴタケの図を載せている。1791年に「フランス本草誌」からきのこの図版のみを取り出した『菌類誌 (Histoire des champignons de la France)』が著された。1752年に生まれ1793年41歳で没した。

以上の文献から1700年代フランスにおいて報告されたアカカゴタケの学名は *Boletus ramosus coralloides foetidus*, *Boletus cancellatus purpureus*, *Clathrus cancellatus*, *Clathrus volvaceus* 等の名称の変遷を重ねてきた。現在ではアカカゴタケの学名は1801年 Persoon が『Synopsis methodica fungorum』241ページに報告した *Clathrus ruber* (Micheli) Pers. となっている。

なお1700年以後のアカカゴタケの西洋での報告者には Persoon, Quélet, Rea, Fischer, Fries, Corda, Rabenhorst, Berkeley, Cooke, Gillet, Winter, Saccardo, Masse, Lloyd, W.G.Smith, Migula, Coker, Couch, Bresadola, Heim 等著名な菌学者の報告を見る。

3) アカカゴタケ属 (*Clathrus* Micheli: Persoon 1801) の和名

表2にアカカゴタケ属の和名、命名者、学名を纏めて表示した。

表2 アカカゴタケ属の和名と命名者		
和名	命名者	学名
アカカゴタケ (赤籠茸)	川村清一	<i>Clathrus ruber</i>
台湾アカカゴタケ (台湾赤籠茸)	小林義雄	<i>Clathrus rispatus</i>
アンドンタケ (行灯茸)	小林義雄	<i>Clathrus ruber f. kusanoi</i>
ナガエノアカカゴタケ	川村清一	<i>Simburum clathroides</i>

(注) ナガエノアカカゴタケはアカカゴタケの和名を持つがアミズキンタケ属に属す。和名の命名は *Clathrus* : 籠状の, *ruber* : 赤い, *rispatus* : 皺曲のあるアンドン : 形態が行灯状からそれぞれ由来している。

表3 アカカゴタケ・アンドンタケの報告者など

和名	採集者	採集年と採集地	報告者	図譜 (写真)	文献番号 (表-4を参照)
アカカゴタケ	河原吉次郎 (東大薬学部)	1928. 7. 3 武州高雄山	川村 清一	有	2
学名記載のみ	中島 壽三 (中学教師)	1927. 9.26 和歌山県牟婁郡川添村	南方 熊楠	なし	1
アンドンタケ	草野 俊一	1928. 7.28 武蔵清澄山	小林 義雄	有	4
アンドンタケ	本郷 次雄	1955. 9.18 東京都八王子市下長総町	本郷 次雄		6
ナガエノアカカゴタケ	藤田 謹次 (中学教師)	1930. 7.30 満州大蓮ヶ浦公園	川村 清一	有	5
アンドンタケ	河野 洋輔	1978.10. 3 熊本県菊池市菊池溪谷	河野 洋輔	有 (写真)	9
アンドンタケ	塩津 孝博	1987. 6.28 熊本県菊池市菊池溪谷	塩津 孝博	有 (写真)	10
アンドンタケ	塩津 孝博	1995. 6.10 熊本県菊池市菊池溪谷	塩津 孝博	有 (写真)	12

(注) ナガエノアカカゴタケはアミズキンタケ属に属するが単に“アカカゴタケ”が付けられている理由でここに載せた。学名・和名共、川村清一が発表している。

4) アカカゴタケ属の日本での採集者, 採集地, 報告者, 図譜・写真の有無

表3より日本で初めてアカカゴタケが採集されたのは1928年(昭和3年)7月3日河原吉次郎による。これを川村清一が報告した。なお南方熊楠の採集記録には英文で次のように記載され採集日を9月25日としている。

Clathrus ruber

only 3 (one young) found, 1 still not open. Extremely foetish. 3.6cm high, 2.7cm broad, volva 2.2cm br., 1.8-2.6cm high. Receptacle as red as the flower of *Lycoris radiata* Herber, underside deeper. Sporemass greenish-black. Volva white, becoming partly argillaceous or fuscous. Imparted ochrey-yellow color to the paper enveloping it.

Nom Jap. Akakagotake.

Hab. on dry red soil, growing with *Miscanthus sinensis*, Kawazoe-mura, Muro, Kii, Coll. by Namizo Nakashima, Sept. 25 1927.

5) 日本のアカカゴタケ・アンドンタケの文献

表4に日本のアカカゴタケ・アンドンタケの文献を示した。表3, 4からアカカゴタケ・アンドンタケの図譜, 写真の掲載を見ると文献1には図譜を見ないが南方熊楠の採集記録には彩色図譜を見る(図4), 文献3, 文献5には川村清一が描いた同一の彩色図譜(図5), 文献4にはアンドンタケの図譜(図6)がある。文献6のアンドンタケの図(図7)は本郷次雄氏によると Fernard Nathan 著『Atlas des Champignons』に無断改変転

写されているという。

文献8は1907年 Lloyd の図譜および Fischer の顕微鏡図譜の転写であり, 文献9~11には愛知県

表4 日本産アカカゴタケ・アンドンタケについての文献一覧

番号	著者, 書誌事項
1	南方熊楠, 植物学雑誌, 42: 243, 1928
2	川村清一, 植物研究雑誌, 5: 29, 1928
3	川村清一, 日本菌類図説, NO.191, 1929
4	小林義雄, 大日本植物誌, 2: 32, 1938
5	川村清一, 原色日本菌類図鑑, 6: 646, 1954
6	今関六也・本郷次雄, 原色日本菌類図鑑, 122頁, 1957
7	伊藤誠哉, 日本菌類誌, 1959
8	広江勇, 最新応用菌学, 1224頁, 1976
9	熊本・大分きのこ会, 九州のきのこ, 22頁, 1984
10	本郷次雄他, 熊本のきのこ, 225頁, 1992
11	今関六也他, 日本のきのこ, 515頁, 1988
12	塩津孝博, 九州に見られるきのこなば, 234頁, 2001

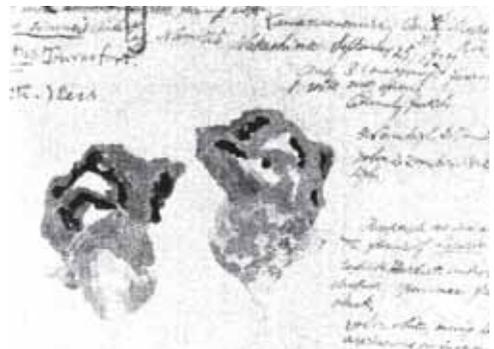


図4 南方熊楠が描いたアカカゴタケの図

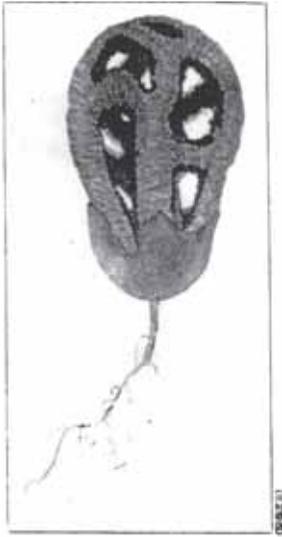


図5 川村清一, 原色日本菌類図鑑に載るアカカゴタケの図(表4文献3, 5)



図6 小林義雄, 大日本植物誌に載るアンドンタケの図(表4文献4)



図7 今関六也・本郷次雄, 原色日本菌類図鑑に載るアンドンタケの図(表4文献6)

豊橋産ほかの美しいアンドンタケの写真が載る。

6) 西洋でのアカカゴタケの初めての原著翻訳(図8, 9)

今回我々の調査により1713年に de Réaumur がアカカゴタケを図を添えて詳しく報告していることが明らかになった。そこでこの原著を翻訳し以下に記す。de Réaumur の詳細な記録に注目していただきたい。

BOLETUS RAMOSUS, CORALOIDES FOETIDUS
(酷い悪臭を放つ珊瑚の色と形をした枝の多いアミガサタケ)



図8 de Réaumur, M. の論文が掲載された雑誌の表紙(左)と論文のタイトルページ(右)(表1参照)

ド・ロミュール氏の考察

植物学の進歩に造詣が深くない人々にとっては、新種の植物について語られても、植物学者に見落とされた植物は僅かであると言われるのを耳にしても驚かないものである。実際、誠に驚くべき事に、地表を飾っている植物達のあの並外れた多様性にはおおそ知られた区分がある。分類された植物のその見事な秩序、ことに、ド・トルヌフォール氏によってなされたものは全くもって素晴らしい。植物学者でなくても、この順序に従えば、ある植物が植物学者達に知られているかどうか判るのである。植物はある綱に整理され、その綱は属に分けられ、そして属は種ごとに分類されている。調べようとする植物がどの綱なのかは、いとも簡単に見つかる。それに少しの調査を合わせれば、綱の中のどの属の特徴を有しているかも見えてくる。その属が判れば、後は記述された種の中にその植物があるかどうかを探すだけで良いのだ。容易とは言え、敏腕な植物学者に調査を依頼するまでは、私がこれからお話するその植物を新種のもとして紹介しないように細心の注意をはらうつもりである。

私はこの植物を *Boletus ramosus, coraloides foetidus* と命名する事とする。珊瑚の色と形をした、酷い悪臭を放つアミガサタケである。まさに今記述したこうした形容句を用いて、その植物をこの属の中の他の種のものとして区別してアミガサタケの仲間に入れる事を決定付けたものは何か、これから叙述する事でお分かり頂けるであろう。

それはかれこれ2年前の事であるが、私はポマトウの麓に在るロミュール領主館の庭園の壁で、その植物を見つけた。壁には同種のもの5~6本

が数ピエ（1ピエ≒32cm）ずつ離れて、ぽつんと生えていた。その植物の地表からの高さはまちまちで、低いものは1ピエ程の高さであった。その壁は東に面していたものの、周囲には灌木やら多くの大木が茂っており、壁のほとんどは日陰になっていた。その壁は灰色の石と赤みを帯びた土とで作られていた（注1）。

その植物はそれぞれ8～9本の枝で構成されており、地表と平行な部分の直径が1.5プース（1プース≒27mm）程の穴から生え出していた。これらの一番長い枝は7プース程あり、大部分の枝は3～4本の2プースか2.5プース程の細い枝に分かれていた。果樹の小枝を這わせて作る垣根の枝の様にこれらの植物はまとまって壁を覆っていたのだが、際立った違いはその他の植物の枝の向きとは逆だと言う事だった。その他の植物が一様に上向きに伸びるのと同じ様さで下向きに伸びていた。私には、下向きに伸びるからと言って、この植物が摂取する液の性質やそれから栄養を摂る方法に特別のシステムを引き起こすとは思えないのである。

枝は柔らかい物質で出来ており、しかも、あまりに柔らかすぎて自分の重みに耐えられないのだ（注2）。おそらくそれが唯一の原因で枝が下がるのであろう。その証拠に、主となる枝から出ている短い枝の大部分は立ち上がっているのだ（注3）。枝のそれぞれの形はかなり不揃いである。太いもの、それもその枝の先端まで根元と同じ太さのものもあれば、先端が随分細いものもある。最も太い部分は6～7リーニュ（1リーニュ≒2.3mm）の幅のものもあり、その中心辺りは2～3リーニュ程度の厚みだけしかない。私が、中心辺りと言っているのは、つまり、各所の円周が平らな楕円形に近いからである。これが、この壁に平行に伸びている枝の幅である。我々が、楕円形に近い枝の円周と言った場合は、おおざっぱな見解しか出せない。普通その先端は2～3のギザギザで終わっているが、そこに不規則なギザギザや、この形をひどく損なわしている、奇妙な配置の不均衡が、無数にあった。

枝は薄層状でも管状でもなく、スポンジ状である（注4）。全く不規則な配置で、しかも不揃いの形の穴や窪みや曲がりくねりで表面が一杯に覆われているようであった。見た目には単にくねくねとなっている様な個所がいくつもあった。その他の所は、周りが全部小さな仕切りの様なもので

取り巻かれており、より窪んだ所もあった。さらに良く観察してみると、その植物の中に入り込んでいる多くの孔がわかる。外からこの植物を眺めているのでは、これら導管をたどることはできないであろうが、縦や横に小さな断片に切ってみると、これらの孔が植物に入り込み、クネクネと蛇行しながら中心部に到達し、そのむこうの、この植物の表面の下の部分にある数ヶ所の開口部に到達して行くのを何とか見る事が出来る（注5）。ところどころ多くの孔が交差しあっている。この植物の内部のこうした孔を注意深く観察すると、孔の中を横切る様に出ているもの、なかには、短い毛が生えた様な配置で並んでいる様々な繊維状のものがみつかると。こうした繊維毛は穀物のめしべ等と何か共通性があるものであろうか？この点こそが、私が、そうではなからうかと一番疑いを持っている点である。

この植物の枝が出ている所の壁の石を剥がしてみた。すると共通の外皮の元が出ているのが見えた。この外皮というのが、膜で出来た巾着の様な形をしており、その膜の物質、組織、色、臭いといったものは普通のキノコの柱頭を覆っているあの薄皮のそれと酷似している。すでに大きくなっているか、腐る寸前のこの植物の内壁の厚みは半リーニュしかない（注6）。この植物がもっと若い場合はもっと厚みがある。この巾着の様なものの表面の内部で全ての枝が繋がっていた。

外皮の表面と向かい合った内側の同じ部分には根が張り付いている（注7）。根は丸く、根元は直径約1リーニュである。根の先は極めて細く尖っており、長さは9～10プースで、壁の中を蛇行している。この根から3～4本の別の細い筋が出ており、元から4～5プースで、先は尖っていた。

私は壁の中を捜してみた。すると枝々を伸ばす為に包み込む外皮が見つかったが、まだ根は出ていなかった。その時、これら外皮は、周りを全て閉じており、平べったい形で、様々な石や土の形があちらこちらに刻まれていた事（注8）等を省いては、狼のスカシッペ（ほこりたけ：*Lycopodon*）と呼ばれるキノコに良く似ていた。それらには根が生えていたが、その根に関しては、説明したところである。その外皮の一つを開いてみると、柔らかく、まだ堅くなっていない緑色のアーモンドの果肉に似た色をした物質が詰まっていた（注9）。この外皮の底には灰色がかかった別の物質が見えたが、これは恐らく芽を出

したばかりの枝であろう。

結果として、壁に開口部がある側の外皮や若い枝は別の側に比べゆったりと広がっていたのは当然である。果樹が壁の方へ枝を伸ばす事などなく、又地下室で発芽させる植物が、地下室の窓の方へ向くというメカニズムの法則によるものと同じことだからである。この同じ法則によって外皮も壁に何らかの穴のあるほうへ広がるに違いないと思う。外皮が最もたわんだ方向へ更に枝が広がるので、当然、同じ方向に枝が伸びて行くのである。従って、枝がしっかりしてきて外皮がかなり薄くなると、その側の外皮を枝が破っていく。植物の生長に伴い、今言及したように外皮が薄くなる。

枝が外皮から、そして壁から出ると、その白っぽい色は、珊瑚に似た鮮やかな赤色へ変わる。あの *Buccinum* (ブシニオウム) の汁や *Oeufs de Pourpre* (ウフ・ド・プールプル) の汁が空気に触れ変化すると同じような状態で、外気に触れ枝が変化する事は他でお話した。たとえ、空気が外皮の中に入り込み、外皮が破られたとしても、そこは壁の外側の枝の周りよりは空気の作用が少ないので、枝の色は薄い。1711年、ページ190の論文の中で我々が明らかにした事実と、このことはかなり一致している。即ち、単に空気によるものではなく、空気の流れが中の液あるいは物体を赤色にするのである。内側では、内壁の厚みのある所よりも内壁に在る穴の周りの方がもっとはっきりとした赤色になっているが、これらは全て同じ理由によるものである。

この植物がある程度生長すると、腐肉のあのすごい臭いにも似た、耐え難いほどの悪臭を放つ。酷い悪臭を放てば放つほど、色も褪せてくる。私はオブリエ氏にかなり大きくなったものをデッサンしてもらったが、その枝の先のいくつかは落ち始めていた。その臭いたるやあまりに不愉快であったが、氏がデッサンしている間、そばでその悪臭に耐えることができたのは驚きであった。

もっとも、ある程度の大きさになると、急速に色褪せ、乾燥した、あるいは湿った気候によって、その先端から乾燥し始めたり、腐っていく。そして、色は乾きかけの血の色にも似た黒っぽい赤となる。同時に5~6本似たものを見つけていたので、その植物が単なる自然の戯れとみなすことは出来ないのだが、それでも、数年前にでもこれに似た植物を見たことを思い出す人がいるのではないかと、問い合わせてみたのだ。すると、同じ壁

の、同じ場所で随分前からこのキノコのようなものがいつも生えていたのを見た、と私に断言してくれる人がいた。

- 注1 石灰岩ではないか？ 豊橋市(混成林)も三ヶ日町(杉林)も石灰岩質。
- 注2 アカカゴタケは袋の中で托が繋がっている為に落下しない。アンドンタケは根元で托が繋がっていない為にこのような場合は全て落下する。図10 写真1, 2
- 注3 托は外側に反り返る性質がある。図10 写真3



図10 写真1, 2 豊橋市石巻町 1986.7.20, 急斜面で深夜12時30分頃, 最高により写真を撮ろうとしたが, 結果は写真のようになった。



図10 写真3 静岡県引佐郡三ヶ日町 1995.7.8.

- 注4 托の内部. これは幼菌の托とグレバ, スポンジ状のところは托. 図10 写真4
- 注5 下部が切れた状態のものと思うが, 若い籠状のものなら繋がっているはず? 図10 写真5
- 注6 幼菌の切断, 内壁の厚み. 図10 写真6
- 注7 根の状態. 図10 写真7, 8
- 注8 様々な石や土にこれだけのきのこが出るには材木か杭のようなものが入っていたのではないか.
- 注9 写真3の右側 幼菌の表面の網目でアンドンタケとわかる.

ンタケとわかる. 図10 写真9

7) 本多澄夫が採集したアンドンタケについて

共同報告者である本多澄夫が1985年9月24日から1995年7月16日にかけて愛知県豊橋市石巻町及び静岡県引佐郡三ヶ日町で撮影したアンドンタケの写真を図10 写真1~10, および12, 13に示した. 写真11はリンコフ氏の提供によるブラジルのアカカゴタケの写真である.

de Réaumur の報告の翻訳文中に「注」を入れたが, この中で本多が撮影したアンドンタケの写

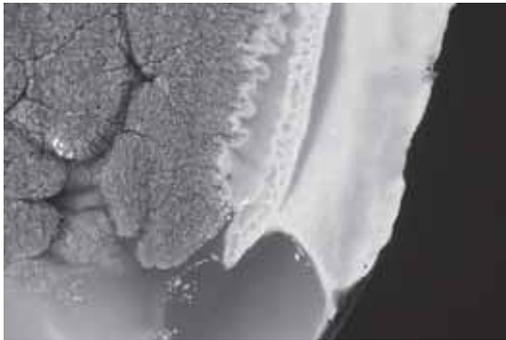


図10 写真4 豊橋市石巻町 1986.7.5

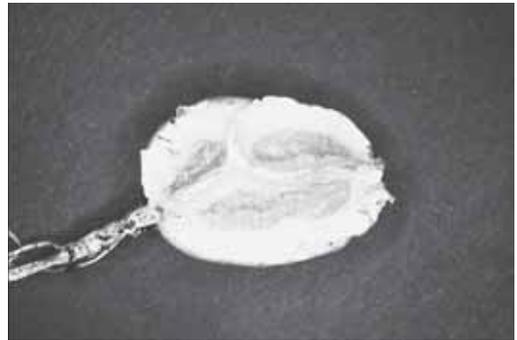


図10 写真7 豊橋市石巻町 1986.7.5.



図10 写真5 豊橋市石巻町 1985.9.24.



図10 写真8 豊橋市石巻町 1988.8.6.



図10 写真6 豊橋市石巻町 1985.9.24.



図10 写真9 豊橋市石巻町 1986.7.13.



図10 写真10 静岡県引佐郡三ヶ日町字平山 1995.7.16.
アンドンタケの托が切れていないもの、撮影後
数分で切れた。



図10 写真12 豊橋市石巻町 1986.7.19.



図10 写真11 リンコフ氏より本多へ寄贈されたブラ
ジル産アカカゴタケの写真。



図10 写真13 静岡県引佐郡三ヶ日町 1995.7.8.

真と de Réaumur の記載とを比較し、それがアン
ドンタケかアカイカタケを示しているとする推定
を図譜だけでは完全に否定できないものの、論文
の内容から現時点では我々は de Réaumur の記録
したきのこはアカカゴタケであると考えている。

参考文献

ウィルフリッド・プラント：植物図譜の歴史—
芸術と科学の出会い—, 408頁, 八坂書房,

1975年.

Ainsworth, G. C.: Introduction to the History of
Mycology, Cambridge University Press, pp 357,
1976.

小林義雄・大谷吉雄・萩原博光 (編) : 南方熊楠
菌誌, 192頁, サンコウ印刷 (株), 1987年.

Dring, D. M.: Clathracea. Kew Bulletin 35(1): 1-96,
1980.

2010年度 活動の記録

第480回例会 甲山森林公園菌類観察会

日 時：2010年7月4日（日）くもり時々晴れ
30名参加

場 所：兵庫県西宮市甲山森林公園
（アカマツ・コナラ林）

大雨の予報が外れ、ときおり日が照りつける蒸し暑い一日となった。前日の雨で傷んだきのこが多かったものの、大型のイグチ類やテングタケ類などが観察された。昨年に引き続き顕微鏡を使つての同定が行われたためヘイワトマヤタケやザラツキキトマヤタケ、コブミノオトマヤタケなどアセタケ数種も判明した。きのこ100種からの同定試験も行われた。（名部光男）

観察品リスト

Hygrocybe conica f. *carbonaria* ヤケノアカヤマタケ
Hygrocybe sp. トガリウスキヤマタケ（仮称）
Laccaria vinaceoavellanea カレバキツネタケ
Laccaria sp. キツネタケ属
Marasmius siccus ハリガネオチバタケ
Marasmius purpureostriatus スジオチバタケ
Xeromphalina campanella ヒメカバイロタケ
Cyptotrama asprata ダイダイガサ
Amanita gemmata ウスキテングタケ
Amanita pantherina テングタケ
Amanita ibotengutake イボテングタケ
Amanita vaginata var. *fulva* カバイロツルタケ
Amanita spreata ツルタケダマシ
Amanita longistriata タマゴテングタケモドキ
Amanita subjunquillea var. *alba* ドクツルタケ
Amanita pseudoporphyria コテングタケモドキ
Amanita citrina var. *citrina* コタマゴテングタケ
Amanita citrina var. *grisea* クロコタマゴテングタケ
Amanita volvata フクロツルタケ
Amanita rubescens ガンタケ
Amanita spissacea ヘビキノコモドキ
Amanita sp. キリンタケ？
Amanita sp. コタマゴテングタケモドキ（仮称）？
Lepiota cristata キツネノカラカサ
Psathyrella sp. ナヨタケ属
Inocybe dulcamara ザラツキキトマヤタケ
Inocybe oblectabilis コブミノオトマヤタケ
Inocybe nodulosospora コブアセタケ
Inocybe malenconii var. *cylindrata* ヘイワトマヤタケ
Inocybe sp. アセタケ属
Alnicola sp.? ヒメムサシタケ属？
Hebeloma vinosophyllum アカヒダワカフサタケ
Cortinarius sp. キイロオオフウセンタケ（仮称）
Cortinarius sp. フウセンタケ属

Entoloma album シロイボカサタケ
Entoloma quadratum アカイボカサタケ
Entoloma sp. イッポンシメジ属
Strobilomyces confusus オニイグチモドキ
Austroboletus gracilis クリカワヤシャイグチ
Boletellus emodensis キクバナイグチ
Boletellus obscurecoccineus ミヤマベニイグチ
Gyroporus punctatus ビロードクリイロイグチ
Suillus granulatus チチアワタケ
Xerochomus nigromaculatus クロアザアワタケ
Pulveroboletus ravenelii ケイロイグチ
Pulveroboletus auriflammeus ハナガサイグチ
Boletus reticulatus ヤマドリタケモドキ
Boletus aokii ヒメコウジタケ
Boletus ornatipes キアミアシイグチ
Boletus fraternus コウジタケ
Boletus pseudocalopus ニセアシベニイグチ
Boletus auripes キアシヤマドリタケ（仮称）
Tylopilus chromapes アケボノアワタケ
Tylopilus castaneiceps スメリニガイグチ
Tylopilus vires ミドリニガイグチ
Tylopilus argillaceus アシボソニガイグチ
Leccinum extremiorientale アカヤマドリ
Russula nigricans クロハツ
Russula sororia キチャハツ
Russula vesca ? チギレハツタケ？
Russula mariae ニオイコベニタケ
Russula violeipes ケショウハツ
Lactarius gracilis アシボソチチタケ
Lactarius subzonarius ニオイワチチタケ
Lactarius akahatsu アカハツ
Cantharellus cibarius アンズタケ
Cantharellus cinnabarinus ベニウスタケ
Clavaria vermicularis var. *sphaerospora* シロソウメンタケモドキ
Clavulinopsis fusiformis ナギナタタケ
Clavulina amethystinoides ムラサキホウキタケモドキ
Stereum hirsutum キウロコタケ
Thelephora palmata モミジタケ
Coltricia cinnamomea ニッケイタケ
Pycnoporus coccineus ヒイロタケ
Trametes orientalis クジラタケ
Trametes versicolor カワラタケ
Antrodia zonata ニクウスバタケ
Perenniporia fraxinea ベッコウタケ
Nigroporus vinosus ブドウタケ
Ganoderma lucidum マンネンタケ
Scleroderma sp. ニセショウロ属
Calvatia craniiformis ノウタケ
Rhizopogon superiorenensis アカショウロ
Auricularia auricula キクラゲ
Bulgaria inquinans ゴムタケ
Helvella lacunosa クロノボリリュウタケ
Isaria atypicola クモタケ

第481回例会 箕面公園菌類観察会

日 時：2010年7月18日（日）晴れ

46名参加

場 所：大阪府箕面市箕面公園南部
（シイ・カシ林）

集合地点の阪急電車箕面駅に集まった皆さんにコース説明と注意点などを山麓で行ない、その後、自由に観察採集を行なった。山はかなり乾燥気味で、例年よりも採集数が少かった。きのこの発生量は、降水量と関係があることを実感した。同定終了後に幾つかの種について解説や質問等の交流があり、その後解散した。採集品の一部は大阪市立自然史博物館に収蔵された。（森本繁雄）

観察品リスト

<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	カレバキツネタケ	<i>Xerochomus nigromaculatus</i>	クロアザアワタケ
<i>Amanita farinosa</i>	ヒメコナカブリツルタケ	<i>Aureoboletus thibetanus</i>	ヌメリコウジタケ
<i>Amanita pantherina</i>	テングタケ	<i>Boletus aokii</i>	ヒメコウジタケ
<i>Amanita ibotengutake</i>	イボテングタケ	<i>Boletus pulverulentus</i>	イロガワリ
<i>Amanita ceciliae</i>	テングツルタケ	<i>Boletus subvelutipes</i>	アメリカウラベニイロガワリ
<i>Amanita subjunquillea</i> var. <i>alba</i>	ドクツルタケ	<i>Tylophilus virens</i>	ミドリニガイグチ
<i>Amanita fuliginosa</i>	クロタマゴテングタケ	<i>Tylophilus nigropurpureus</i>	クロニガイグチ
<i>Amanita pseudoporphyria</i>	コテングタケモドキ	<i>Tylophilus ballouii</i>	キニガイグチ
<i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i> ?	クロコタマゴテングタケ?	<i>Tylophilus ferrugineus</i>	チャニガイグチ
<i>Amanita volvata</i>	フクロツルタケ	<i>Tylophilus alutaceoumbrinus</i>	フモトニガイグチ
<i>Amanita flavipes</i>	コガネテングタケ	<i>Leccinum extremorientale</i>	アカヤマドリ
<i>Amanita spissacea</i>	ヘビキノコモドキ	<i>Russula pectinatoides</i>	ニセクサハツ
<i>Amanita</i> sp.	ハマクサギタマゴタケ	<i>Russula sororia</i>	キチャハツ
<i>Amanita</i> sp.	テングタケ属キリントケ群	<i>Russula cyanoxantha</i>	カワリハツ
<i>Agaricus praeclearsquamosus</i>	ナカグロモリノカサ	<i>Russula vesca</i> ?	チギレハツタケ?
<i>Psathyrella candolleana</i>	イタチタケ	<i>Russula bella</i> ?	ニオイコベニタケ?
<i>Inocybe lutea</i>	キイロアセタケ	<i>Russula amoena</i>	ムラサキカスリタケ
<i>Inocybe asterospora</i>	カブラアセタケ	<i>Russula violeipes</i>	ケショウハツ
<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属	<i>Russula virescens</i>	アイタケ
<i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属 No. 1	<i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
<i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属 No. 2	<i>Russula castanopsidis</i>	カレバハツ
<i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属 (キンチャフウセンタケ群) No. 3	<i>Russula lilacea</i>	ウスムラサキハツ
<i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属 No. 4	<i>Russula rosacea</i>	ヤブレベニタケ
<i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属 No. 1	<i>Russula kansaiensis</i>	ヒナベニタケ
<i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属 No. 2	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属 (クサハツ群)
<i>Entoloma depluens</i> ?	カクミノコナカブリ?	<i>Lactarius uyedae</i>	ヒメシロチチタケ
<i>Entoloma album</i>	シロイボカサタケ	<i>Lactarius piperatus</i>	ツチカブリ
<i>Entoloma quadratum</i>	アカイボカサタケ	<i>Lactarius vellereus</i>	ケシロハツ
<i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ	<i>Lactarius volemus</i>	チチタケ
<i>Strobilomyces confusus</i> ?	オニイグチモドキ?	<i>Lactarius corrugis</i>	チリメンチチタケ
<i>Austroboletus gracilis</i>	クリカワヤシャイグチ	<i>Lactarius hygrophoroides</i>	ヒロハチチタケ
<i>Austroboletus subvirens</i>	オオヤシャイグチ	<i>Lactarius gerardii</i>	クロチチダマシ
<i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ	<i>Lactarius</i> sp.	モチゲチチタケ
<i>Boletellus obscurecoccineus</i>	ミヤマベニイグチ	<i>Lactarius</i> sp.	チチタケ属 No. 1
<i>Gyroporus punctatus</i>	ビロードクリイロイグチ	<i>Lactarius</i> sp.	チチタケ属 No. 2
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Cantharellus tubaeformis</i>	ミキイロウスタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Cantharellus minor</i> ?	ヒナアンズタケ?
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属 No. 1
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属 No. 2
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Clavulina cristata</i>	カレエダタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Clavulina rugosa</i>	カレエダタケモドキ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>	モミジウロコタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Stereopsis burtianum</i>	ハナウロコタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Sparassis crispa</i>	ハナビラタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Fistulina hepatica</i>	カンゾウタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Thelephora aurantiotincta</i>	ボタンイボタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Sarcodon scabrosus</i>	ケロウジ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Polyporus grammacephalus</i> ?	スジウチワタケ?
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Polyporus badius</i>	アシグロタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Microporus affinis</i>	ウチワタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i>	ニッケイタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Coltricia montagnei</i> var. <i>greenii</i>	ウズタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Daedalea dickinsii</i>	ホウロクタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Trichaptum elongatum</i>	シロハカワラタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Cyclomyces fuscus</i>	ワヒダタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Inonotus vullatus</i>	アズマタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Jansia borneensis</i>	コイヌノエフデ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Hydnangium carneum</i>	コイシタケ
<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	<i>Tremella mesenterica</i>	コガネニカワタケ

Guepinia spathularia ツノマタタケ
Helvella macrospora var. *macrospora* ナガエノチャワンタケ
Helvella elastica アシボソノポリリュウタケ

第482回例会 ひろしま県民の森「比婆の森」菌類観察会

日 時：2010年 7月31日 (土) 晴れのち曇

37名参加

場 所：広島県庄原市西城町 ひろしま県民の森
 (ブナが多い落葉広葉樹林)

広島県庄原市西城町の「比婆の森」には2007年, 2009年に続き3度目の合宿になりました。宿舎の方もキノコ観察に理解があつて話が早いのと, 料理が美味しいのが良いです。宿舎の周辺, ブナが多い落葉広葉樹林で, 気持ちのよい散策コースがいくつもあります。観察会は烏帽子山登山組と宿舎周辺組と立烏帽子へのハイキング組に分かれて行いました。昨年より1ヶ月早いこともあり, ベニタケ類やテングタケ類, イグチ類が多く見つかりました。(丸山健一郎)

観察品リスト

Pleurotus pulmonarius ウスヒラタケ
Hygrocybe suzukaensis シュイロガサ
Hygrocybe cantharellus ベニヒガサ
Asterophora lycoperdoides ヤグラタケ
Laccaria vinaceoavellanea カレバキツネタケ
Tricholomopsis rutilans サマトンモドキ
Collybia dryophila モリノカレバタケ
Collybia peronata ワサビカレバタケ
Oudemansiella venosolamellata スメリツバタケモドキ
Oudemansiella radicata ツエタケ
Oudemansiella platyphylla ヒロヒダタケ
Marasmius pulcherripes ハナオチバタケ
Marasmius siccus ハリガネオチバタケ
Mycena pura s.l. サクラタケ (広義)
Xeromphalina campanella ヒメカバイロタケ
Amanita farinosa ヒメコナカブリツルタケ
Amanita rubrovolvata ヒメベニテングタケ
Amanita sychonopyramis f. *subannulata* テングタケダマシ
Amanita ceciliae? テングツルタケ?
Amanita vaginata var. *vaginata* ツルタケ
Amanita vaginata var. *vaginata* s.l. ツルタケ (広義)
Amanita vaginata var. *punctata* オオツルタケ
Amanita longistriata タマゴテングタケモドキ
Amanita subjunquillea タマゴタケモドキ
Amanita subjunquillea var. *alba* ドクツルタケ
Amanita oberwinklerana ニオイドクツルタケ
Amanita volvata フクロツルタケ
Amanita rubescens ガンタケ
Amanita sp. キリンタケ近縁種
Amanita spissacea ヘビキノコモドキ
Amanita sinensis ハイカグラテングタケ

Amanita virgineoides シロオニタケ
Inocybe fastigiata オオキノヌハダトマヤタケ
Inocybe maculata シラゲアセタケ
Inocybe calamistrata s.l. アオアシアセタケ (広義)
Inocybe sp. アセタケ属 No. 1
Inocybe sp. アセタケ属 No. 2
Entoloma quadratum アカイボカサタケ
Strobilomyces sp. コオニグチ近縁種
Boletellus obscurecoccineus ミヤマベニグチ
Gyroporus punctatus ビロードクリイロイグチ
Xerocomus nigromaculatus クロアザアワタケ
Pulveroboletus ravenelii キイロイグチ
Aureoboletus thibetanus スメリコウジタケ
Boletus aurantiosplendens クガネヤマドリ
Boletus subvelutipes アメリカウラベニイロガワリ
Tylophilus virens ミドリニガイグチ
Tylophilus rigens オクヤマニガイグチ
Leccinum extremorientale アカヤマドリ
Leccinum hortonii シワチャヤマイグチ
Leccinum griseum スミゾメヤマイグチ
Russula eburneoareolata ツギハギハツ
Russula nigricans クロハツ
Russula densifolia s.l. クロハツモドキ (広義)
Russula earlei キツネハツ
Russula foetens クサハツ
Russula laurocerasi クサハツモドキ
Russula senis オキナクサハツ
Russula sp. イロガワリシロハツ類似種
Russula sororia s.l. キチャハツ (広義)
Russula cyanoxantha カワリハツ
Russula heterophylla ウグイスハツ
Russula vesca? チギレハツタケ?
Russula alboareolata ヒビワレシロハツ
Russula sp. ベニタケ属ニオイベニハツ群?
Russula pseudointegra シュイロハツ
Russula sp. アカバニセクシロハツ類似種
Lactarius piperatus ツチカブリ
Lactarius glaucescens アオゾメツチカブリ
Lactarius subpiperatus ツチカブリモドキ
Lactarius vellereus ケシロハツ
Lactarius subvellereus ケシロハツモドキ
Lactarius volemus チチタケ
Lactarius volemus チチタケ (黄色系)
Lactarius sp. ウスイロカラチチタケ類似種
Lactarius subplinthogalus ヒロハウスズミチチタケ
Lactarius sp. チチタケ属
Cantharellus minor ヒナアンズタケ
Clavulinopsis miyabeana ベニナギナタタケ
Clavicornia sp. フサヒメホウキタケ属
Ramaria ephemeroherma ウスカワホウキタケ
Gomphus floccosus ウスタケ
Stereum hirsutum キウロコタケ
Polyporus brumalis オツネンタケモドキ
Microporus vernicipes ツヤウチワタケ
Piptoporus soloniensis シロカイメンタケ
Tyromyces chioneus オシロイタケ
Coltricia cinnamomea ニッケイタケ
Daedalea dickinsii ホウロクタケ
Tyrametes versicolor カワラタケ
Bjerkandera adusta ヤケイロタケ
Fomes fomentarius ツリガネタケ

<i>Calostoma</i> sp.	ホオベニタケ
<i>Cyathus</i> sp.	チャダイゴケ属
<i>Jansia borneensis</i>	コイスノエフデ
<i>Dacrymyces roseotinctus?</i>	モモイロダクリオキン?
<i>Leotia</i> sp.	ズキンタケ属
<i>Chlorociboria aeruginascens</i>	ロクショウグサレキンモドキ
<i>Helvella macroopus</i> var. <i>macroopus</i>	ナガエノチャワタケ
<i>Cordyceps konnoana</i>	マルミノコガネムシタケ
<i>Cordyceps nutans</i>	カメムシタケ
<i>Isaria japonica</i>	ハナサナギタケ
<i>Hirsutella nutans</i>	エダウチカメムシタケ

第483回例会 龍谷の森菌類観察会

日 時：2010年 9月12日（日）晴れ
 44名参加
 場 所：滋賀県大津市瀬田大江町龍谷大学とその周辺（雑木林）

小雨の夏の影響を受け採集品は少なかった。源内峠コースと龍谷の森コースに分けて、記録の整理を行なった。同定後、テングタケ・イグチについて正井氏より、ベニタケ・チチタケ属について上田氏より、冬虫夏草について東氏・梶山氏より、ウラベニガサ属について斎木氏より、その他の種・属について小寺氏、名部氏、森本より解説があった。（森本繁雄）

源内峠観察品リスト

<i>Pleurotus pulmonarius</i>	ウスヒラタケ
<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	カレバキツネタケ
<i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ属
<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
<i>Amanita rufoferruginea</i>	カバイロコナテングタケ
<i>Amanita volvata</i>	フクロツルタケ
<i>Amanita hongoi</i>	シロオニタケモドキ
<i>Amanita timida</i> var. <i>suouensis</i>	スオウシロオニタケ
<i>Amanita</i> sp.	テングタケ属
<i>Pluteus</i> sp.	ウラベニガサ属
<i>Agaricus</i> sp.	ハラタケ属
<i>Lepiota cygnea</i>	シロヒメカラカサタケ
<i>Cortinarius rubicundulus</i>	イロガワリフウセンタケ
<i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属 No. 1
<i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属 No. 2
<i>Crepidotus</i> sp.?	チャヒラタケ属 No. 3?
<i>Simocybe</i> sp.	キチャムクエタケ（仮称）
<i>Clitopilus prunulus</i>	ヒカゲウラベニタケ
<i>Entoloma</i> sp.	イッポンシメジ属 No. 1
<i>Entoloma</i> sp.?	イッポンシメジ属 No. 2?
<i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ
<i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ
<i>Boletaceae</i> sp.	オオアワタケ（仮称）
<i>Phylloporus orientalis</i>	アカエノイロガワリキヒダタケ
<i>Pulveroboletus ravenelii</i>	キイロイグチ
<i>Boletus griseus</i> var. <i>fuscus?</i>	オオミノクロアワタケ?
<i>Boletus auripes</i>	キアシヤマドリタケ（仮称）

<i>Boletus ornatipes</i>	キアミアシイグチ
<i>Boletus laetissimus</i>	ダイダイイグチ
<i>Boletus</i> sp.	フリルイグチ（仮称）
<i>Tylophilus virens</i>	ミドリニガイグチ
<i>Tylophilus alutaceoumbrinus</i>	フモトニガイグチ
<i>Russula japonica</i>	シロハツモドキ
<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
<i>Xylobolus spectabilis</i>	モミジウロコタケ
<i>Thelephora aurantiotincta</i>	ボタンイボタケ
<i>Thelephora</i> sp.	イボタケ属
<i>Polyporus badius</i>	アシグロタケ
<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
<i>Trichaptum elongatum</i>	シロハカワラタケ
<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
<i>Dicelhalospora rufocornea</i>	ニセキンカクアカビョウタケ
<i>Xylaria polymorpha</i>	マメザヤタケ
<i>Xylaria magnolia</i>	ホソツクシタケ
<i>Isaria takamizusanensis</i>	セミノハリセンボン
<i>Beauveria</i> sp.	ボーベリア属
<i>Nomuraea cylindrospora</i>	リョクキョウビョウウキン

龍谷の森観察品リスト

<i>Clitocybe</i> sp.	カヤタケ属
<i>Tricholomopsis</i> sp.?	ヒノキアカゲタケ（仮称）?
<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
<i>Amanita japonica</i>	ハイイロオニタケ
<i>Amanita hongoi</i>	シロオニタケモドキ
<i>Agaricus</i> sp.?	ヒメナカグロモリノカサ（仮称）?
<i>Agrocybe</i> sp.	ツバナシフミヅキタケ近縁種
<i>Gymnopilus penetrans</i>	キツムタケ
<i>Crepidotus mollis</i>	チャヒラタケ
<i>Entoloma farlowii?</i>	ダイダイウラベニタケ?
<i>Entoloma</i> sp.	ダイダイイボカサタケ（仮称）
<i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ
<i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ
<i>Boletaceae</i> sp.	ニセヌメリコウジタケ（仮称）
<i>Pulveroboletus ravenelii</i>	キイロイグチ
<i>Aureoboletus thibetanus</i>	ヌメリコウジタケ
<i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ
<i>Boletus auripes</i>	キアシヤマドリタケ（仮称）
<i>Boletus fraternus</i>	コウジタケ
<i>Boletus</i> sp.	フリルイグチ（仮称）
<i>Tylophilus virens</i>	ミドリニガイグチ
<i>Tylophilus ferrugineus</i>	チャニガイグチ
<i>Tylophilus argillaceus</i>	アシボソニガイグチ
<i>Tylophilus alutaceoumbrinus</i>	フモトニガイグチ
<i>Tylophilus</i> sp.	ニガイグチ属
<i>Russula</i> sp.	リュウコクヒナベニタケ（仮称）
<i>Russula</i> sp.	アカバニセクロハツ（仮称）
<i>Lactarius subplinthogalus</i>	ヒロハウスズミチチタケ
<i>Cantharellus cinnabarinus</i>	ベニウスタケ
<i>Clavulinopsis</i> sp.	ナギナタタケ属
<i>Thelephora aurantiotincta</i>	ボタンイボタケ
<i>Microporus vernicipes</i>	ツヤウチワタケ
<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
<i>Trichaptum abietinum</i>	シハイタケ
<i>Trichaptum elongatum</i>	シロハカワラタケ
<i>Bjerkandera fumosa</i>	ヒメモグサタケ
<i>Perenniporia ochroleuca</i>	ウズラタケ
<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ

<i>Phellinus gilvoides</i>	ネンドタケモドキ
<i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
<i>Dacrymyces roseotinctus</i>	モモイロダクリオキン
<i>Dicephalospora rufocornea</i>	ニセキンカクアカビョウタケ
<i>Aleurina imaii</i>	アレウリナ イマイ種
<i>Graphostroma</i> sp.	ニマイガワキン近縁種
<i>Hypoxylon truncatum</i>	クロコブタケ
<i>Isaria sinclairii</i>	ツクツクボウシタケ

第484回例会 吉田山菌類観察会

日 時：2010年10月2日(土) 快晴

29名参加

場 所：京都市左京区吉田山

(雑木林)

採集きのこは例年通り「きのこ展」会場に持ち込まれ、同定後に会場に展示された。(榎本輝彦)

観察品リスト

<i>Pleurotus ostreatus</i>	ヒラタケ
<i>Lentinellus ursinus</i>	イタチナミハタケ
<i>Armillariella tabescens</i>	ナラタケモドキ
<i>Collybia neofusipes</i>	アカチャツエタケ
<i>Collybia dryophila</i>	モリノカレバタケ
<i>Collybia confluens</i>	アマタケ
<i>Oudemansiella radicata</i>	ツエタケ
<i>Oudemansiella</i> sp.	ツエタケ属
<i>Mycena pura</i>	サクラタケ
<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
<i>Cyptotrama asprata</i>	ダイダイガサ
<i>Amanita farinosa</i>	ヒメコナカブリツルタケ
<i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i>	カバイロツルタケ
<i>Macrolepiota procena</i>	カラカサタケ
<i>Macrolepiota</i> sp.	マントカラカサタケ
<i>Leucoagaricus rubrotinctus</i>	アカキツネガサ
<i>Leucocoprinus fragilissimus</i>	キツネノハナガサ
<i>Agaricus silvaticus</i> ?	モリハラタケ?
<i>Agaricus abruptibulbus</i>	ウスキモリノカサ
<i>Agaricus praeclaresqiamosus</i>	ナカグロモリノカサ
<i>Psathyrella candolleana</i> s.l.	イタチタケ(広義)
<i>Hypoholoma fasciculare</i>	ニガクリタケ
<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属
<i>Crepidotus badiofloccosus</i>	クリゲノチャヒラタケ
<i>Simocybe</i> sp.	ビロードムクエタケ属
<i>Austroboletus fusisporus</i>	ヤシャイグチ
<i>Austroboletus subvirens</i>	オオヤシャイグチ
<i>Boletaceae</i> sp.	ニセヌメリコウジタケ(仮称)
<i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ
<i>Boletus violaceofuscus</i>	ムラサキヤマドリタケ
<i>Boletus pseudocalopus</i>	ニセアシベニイグチ
<i>Russula amoena</i>	ムラサキカスリタケ
<i>Russula violeipes</i>	ケショウハツ
<i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
<i>Clavulina rugosa</i>	カレエダタケモドキ
<i>Sparassis crispa</i>	ハナビラタケ
<i>Pulcherricum caeruleum</i>	アイコウヤクタケ
<i>Antrodia zonata</i>	ニクウスバタケ

<i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
<i>Bjerkandera</i> sp.	ヤケイロタケ属
<i>Daedaleopsis styracina</i>	エゴノキタケ
<i>Daedaleopsis tricolor</i>	チャカイガラタケ
<i>Perenniporia ochroleuca</i>	ウズラタケ
<i>Elfvigia applanata</i>	コフキササルノコシカケ
<i>Clyomyces fuscus</i>	ワヒダタケ
<i>Inonotus vullatus</i>	アズマタケ
<i>Scleroderma cepa</i>	タマネギモドキ
<i>Pisolithus tinctorius</i>	コツブタケ
<i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ
<i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ
<i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
<i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属
<i>Tremella mesenterica</i>	コガネニカワタケ
<i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
<i>Dicephalospora rufocornea</i>	ニセキンカクアカビョウタケ
<i>Chlorociboria aeruginosa</i>	ロクシヨウグサレキン
<i>Galiella celebica</i>	オオゴムタケ
<i>Beauveria</i> sp.	ポーベリア属

第486回例会 近畿大学農学部構内里山菌類観察会

日 時：2010年11月7日(日) 曇り

39名参加

場 所：奈良県奈良市中町近畿大学農学部

(雑木林)

近畿大学の寺下先生の協力で、講義室をお借りしました。キャンパスの概要説明をしていただいた後、キャンパス内の雑木林やマツ林などに採集に行きました。きのこが少ないかもと心配していましたが、100種類を超える採集品がありました。アカヤマドリやテングタケ類などの夏のきのこ、シモコシやフウセンタケ類、ムラサキシメジなど秋のきのこが同時に並んでいたのは、今年の異常な気象を感じさせるものでした。リサーチ不足で、日曜日は富雄駅からのバスが少なかったの、土曜日に行った方が良かったと反省しました。

(丸山健一郎)

観察品リスト

<i>Lentinellus ursinus</i>	イタチナミハタケ
<i>Camarophyllus</i> sp.	オトメノカサ近縁種
<i>Camarophyllus pratensis</i>	ハダイロガサ
<i>Hygrocybe</i> sp.	アカヤマタケ属
<i>Lyophyllum decastes</i>	ハタケシメジ
<i>Laccaria amethystea</i>	ウラムラサキ
<i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ
<i>Laccaria laccata</i>	キツネタケ
<i>Laccaria ohiensis</i>	キツネタケモドキ
<i>Laccaria</i> sp.	キツネタケ属 No. 1
<i>Laccaria</i> sp.	キツネタケ属 No. 2

<i>Clitocybe odora</i>	アオイヌシメジ	<i>Rhodocybe mundula</i>	ムツノウラベニタケ
<i>Clitocybe</i> sp.	カヤタケ属	<i>Entoloma sarcopum</i>	ウラベニホテイシメジ
<i>Lepista nuda</i>	ムラサキシメジ	<i>Entoloma</i> sp.	イッポンシメジ属
<i>Tricholoma auratum</i>	シモコシ	<i>Suillus luteus</i>	スメリイグチ
<i>Tricholoma myomyces</i>	ハマシメジ	<i>Suillus granulatus</i>	チチアワタケ
<i>Tricholoma ustale</i>	カキシメジ	<i>Leccinum extremiorientale</i>	アカヤマドリ
<i>Melanoleuca melaleuca</i>	コザラミノシメジ	<i>Russula delica</i>	シロハツ
<i>Collybia neofusipes</i>	アカチャツエタケ	<i>Russula nigricans</i>	クロハツ
<i>Panellus stypticus</i>	ワサビタケ	<i>Russula compacta</i>	アカカバイロタケ
<i>Oudemansiella radicata</i>	ツエタケ	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
<i>Mycena pura</i>	サクラタケ	<i>Lactarius subplinthogalus</i>	ヒロハウズズミチチタケ
<i>Mycena</i> sp.	クスギタケ属	<i>Lactarius chrysorrheus</i>	キチチタケ
<i>Baeospora myosura</i>	ニセマツカサシメジ	<i>Lactarius akahatsu</i>	アカハツ
<i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i>	カバイロツルタケ	<i>Lactarius hatsudake</i>	ハツタケ
<i>Amanita subjunquillea</i> var. <i>alba</i>	ドクツルタケ	<i>Lactarius</i> sp.	アカミミヒメチチタケ (仮称)
<i>Amanita pseudoporphyria</i>	コテングタケモドキ	<i>Lactarius</i> sp.	チチタケ属 No. 1
<i>Amanita abrupta</i>	タマシロオニタケ	<i>Lactarius</i> sp.	チチタケ属 No. 2
<i>Amanita virgineoides</i>	シロオニタケ	<i>Cantharellus tubaeformis</i>	ミキイロウスタケ
<i>Amanita timida</i> var. <i>suouensis</i>	スオウシロオニタケ	<i>Pterula multifida</i>	フサタケ近縁種
<i>Amanita kotohiraensis</i>	コトヒラシロテングタケ	<i>Stereum ostrea</i>	チャウロコタケ
<i>Amanita</i> sp.	アケボノドクツルタケ (仮称)	<i>Hydnum repandum</i>	カノシタ
<i>Pluteus</i> sp.	ウラベニガサ属	<i>Sarcodon scabrosus</i>	ケロウジ
<i>Agaricus</i> sp.	ハラタケ属	<i>Polyporus alveolarius</i>	ハチノスタケ
<i>Phaeolepiota aurea</i> ?	コガネタケ?	<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
<i>Coprinus</i> sp.	ヒトヨタケ属	<i>Antrodia zonata</i>	ニクウスバタケ
<i>Coprinus</i> sp.	ヒトヨタケ属	<i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
<i>Psathyrella velutina</i>	ムジナタケ	<i>Trichaptum biforme</i>	ハカワラタケ
<i>Psathyrella piluliformis</i>	ムササビタケ	<i>Daedaleopsis purpurea</i>	ミイロアマタケ
<i>Psathyrella</i> sp.	ナヨタケ属 No. 1	<i>Daedaleopsis tricolor</i>	チャカイガラタケ
<i>Psathyrella</i> sp.	ナヨタケ属 No. 2	<i>Abundisporus pubertatis</i>	ホウネンタケ
<i>Psathyrella</i> sp.	ナヨタケ属 No. 3	<i>Elfvigia applanata</i>	コフキササルノコシカケ
<i>Agrocybe semiorbicularis</i> ?	ハタケキノコ?	<i>Phellinus gilvus</i>	ネンドタケ
<i>Stropharia aeruginosa</i>	モエギタケ	<i>Phellinus gilvoides</i>	ネンドタケモドキ
<i>Hypholoma fasciculare</i>	ニガクリタケ	<i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
<i>Pholiota squarrosa</i>	スギタケ	<i>Scleroderma</i> sp.	ツチグリカタカワタケ近縁種
<i>Pholiota</i> sp.	ツチスギタケ近縁種	<i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ
<i>Pholiota terrestris</i>	ツチスギタケ	<i>Gastrum triplex</i>	エリマキツチグリ
<i>Phaeoamarasmius erinacella</i>	ヒメスギタケ	<i>Gastrum mirabile</i>	ヒナツチガキ
<i>Inocybe geophylla</i>	シロトマヤタケ	<i>Gastrum lageniforme</i> ?	トガリフクロツチグリ?
<i>Inocybe kobayashii</i> ?	コバヤシアセタケ?	<i>Calvatia rubroflava</i> ?	イロガワリホコリタケ?
<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属 No. 1	<i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属 No. 2	<i>Lycoperdon spadiceum</i>	キホコリタケ
<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属 No. 3	<i>Phallus impudicus</i>	スッポンタケ
<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属 No. 4	<i>Kobayasia nipponica</i>	シラタマタケ
<i>Hebeloma</i> sp.	ワカフサタケ属	<i>Rhizopogon rubescens</i>	ショウロ
<i>Cortinarius purpurascens</i>	カワムラフウセンタケ	<i>Paecilomyces</i> sp.	マユダマタケ
<i>Cortinarius azureus</i>	ハイムラサキフウセンタケ近縁種	<i>Bisporella citrina</i>	ビョウタケ
<i>Cortinarius violaceus</i>	ムラサキフウセンタケ	<i>Galiella celebica</i>	オオゴムタケ
<i>Dermocybe cinnamomea</i>	ササタケ	<i>Helvella macropus</i> var. <i>macropus</i>	ナガエノチャワンタケ
<i>Gymnopilus liquiritiae</i>	チャツムタケ	<i>Cordyceps nutans</i>	カメムシタケ
<i>Clitopilus</i> sp.	ヒカゲウラベニタケ属	<i>Hypoxylon truncatum</i>	クロコブタケ

会報記事投稿のご案内

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇原則として、投稿資格は本会会員に限ります(編集委員会から依頼する場合は例外とします)。
- ◇キノコやカビに関する記事、図、写真やイラスト、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇原稿の量は問いませんが、1600～2000字を目処にまとめていただくと幸いです。もちろん、これより多くても少なくてもかまいません。
- ◇図やイラストは黒インクで、刷り上がりの1.5倍程度の大きさでお描きください。カラーでの印刷はできませんので、白黒でも見やすい原稿の作成をお願いします。
- ◇写真の掲載を希望される場合は、あらかじめ編集委員会までおたずねください。(写真製版料をご負担いただく場合があります)
- ◇原稿は下記の送付先にお送りください。別紙に著者名、連絡先(住所・電話番号・FAX番号・電子メールアドレス)を書いて添付ください。ワープロなどをお使いの場合は、フロッピーディスクなどにテキスト形式のファイルで保存されたものを添付いただくようお願いいたします。また、電子メールを利用でき

- る場合は、電子メールでの投稿も歓迎いたします。
- ◇原稿の採否、掲載の順序、レイアウト等は、編集委員会の決定にお委せてください。
- ◇編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお委せてください。
- ◇原稿には表題、著者名、本文のほかに必要な場合は引用文献(あるいは参考文献)をあげてください。
- ◇著者校正は、初稿だけとし、原稿正本とともに返送ください。
- ◇掲載された原稿はお返しませんが、図、写真に限り著者校正の際にお返しします。

<原稿送付先>

関西菌類談話会 会報編集委員会
 正井俊郎
 〒673-0844 明石市東野町2043-15-101
 TEL : 078-917-3923
 E-mail : toshiro@mug.biglobe.ne.jp

編集委員：小林久泰, 丸山健一郎, 正井俊郎[○], 森本繁雄,
 上田俊穂, (abc 順・[○]印は編集委員長)

表紙によせて ヌメリツバタケ *Mucidula mucida* (Schrad. : Fr.) var. *asiatica* R. H. Petersen
 (タマバリタケ科ヌメリツバタケ属)

2011年6月19日に行われた春日山での鹿害関連の観察会にて見かけたものです。コジイと思われる木の根が露出した部分に発生していました。春日山では、このときに初めて見たキノコです。

FUJIFILM HS-10にて撮影。焦点距離24mm相当、絞りF8、1/8秒露出。丸山健一郎

編集後記

色々なきのこが一斉に発生する季節となりました。早く会報を発行しようと努力しましたが、結果として遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

投稿していただいた後、諸事情が重なり長期間掲載できなかった記事を、今回ようやく載せることができました。投稿者にお詫びし、御協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

なお、長い間途切れておりました観察会の報告を2010年分から復活いたしました。

(正井俊郎)

関西菌類談話会会報 No. 29

2012年8月15日 印刷

2012年8月15日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

ホームページ <http://kmc-jp.net/>

事務局 〒612-0879 京都市伏見区深草西出町25-4

森本 繁雄 方

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る